



30年 の あ ゆ み

1984 - 2014

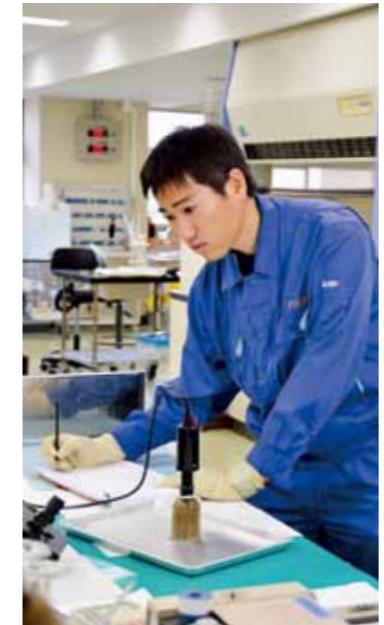


東京都下水道サービス株式会社



下水道は未来へつながる道

和と技が織りなすTGSのしなやかな力が、
今も絶え間なく進化する都市を支えている。



東京都下水道サービス株式会社(TGS)は、1984年に東京都と民間企業の資金と技術力を活用し、企業の経済性を發揮するとともに公共の福祉を増進することを企業理念とする株式会社として設立されました。

以来、30年間にわたり、東京都の下水道事業を補完・代行し、下水道サービスの維持向上に努め、今では東京の下水道事業を支えるパートナーとして欠かせない存在となっています。そして、豊富な実務と行政経験に基づく高い技術力を背景に、広く国内外に事業を展開するまで成長いたしました。

これもひとえに、東京都下水道局をはじめとした多くの関係者のご支援と、TGSの代々の経営者、社員等の汗と苦労、不斷の努力の賜物と心より感謝申し上げます。

創立30年を迎え、いま新たな第一歩を踏み出すにあたり、会社設立の原点を改めて確認するとともに、知恵と工夫の詰まつた事業運営の歴史を学ぶことで、将来に向けての道しるべにしてまいりたいと思っております。

今後とも、全社員が一丸となりTGSのさらなる発展を目指し努力してまいりますので、皆さま方のより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



代表取締役社長

小川 健一

和で築き、技で育む TGS

社訓

補完・代行

東京都の下水道事業を補完・代行し下水道サービスの維持向上を図りより良い地球環境の実現に努めます

ベストミックス

行政経験の活用と民間活力の結集により安全性と信頼性を確保しつつ効率的に事業を展開していきます

創意工夫と技術開発

現場での豊富な実務経験による創意工夫と技術開発に努め総合的な技術力の向上を目指します

誇りと信念

社会に貢献しているという誇りと信念をもち誠実に行動します

事業運営方針

東京都と人事や業務面において密接な連携を保ち、
ベストパートナーとして下水道事業の確実・良好な履行を図るとともに、
円滑なサービスの向上に資するよう努めます。



このシンボルロゴタイプは、
TGSの目指す姿を視覚的に象徴化したものです。
つながる「T」「G」「S」は、
社員が互いに協力しあうベストミックスを表しています。
透明感のあるブルーは、
きれいな水と先進性を象徴するとともに、
確実な維持管理と革新的な技術で
お客様の信頼に応えて社会に貢献し、
成長発展していくTGSを表しています。

TGS 30年のあゆみ



設立総会

1984年、東京都区部の下水道普及率は80%に達していました。普及促進のスピードを落とすことなく、膨大な下水道施設を的確に維持管理するため、東京都の下水道事業を補完・代行する組織が必要となっていました。そこで当時一般的であった下水道公社案が検討されたものの、知事より「民間の活力を取り入れた株式会社とすることを検討せよ」との指示を受け、東京都と民間企業の資金と技術力を活用できる新たな組織として、下水道分野として全国に前例のない、株式会社の第三セクター「東京都下水道サービス株式会社」(TGS)が設立されました。



⑥ 芝浦水処理センター(現・芝浦再生センター)汚泥処理施設

TGSの事業は、東京都下水道局から受託した汚泥処理や再生水施設の運転管理業務、休日・夜間の電話を受ける緊急処理受付業務などから始まりました。施設の確実かつ効率的な管理と高水準なお客さまサービスの提供が認められ、水処理施設保全管理業務、水質試験業務、管路維持管理業務、工事監督補助業務などの新たな業務の受託につながり、事業を拡大・成長させることができました。



自由断面SPR工法

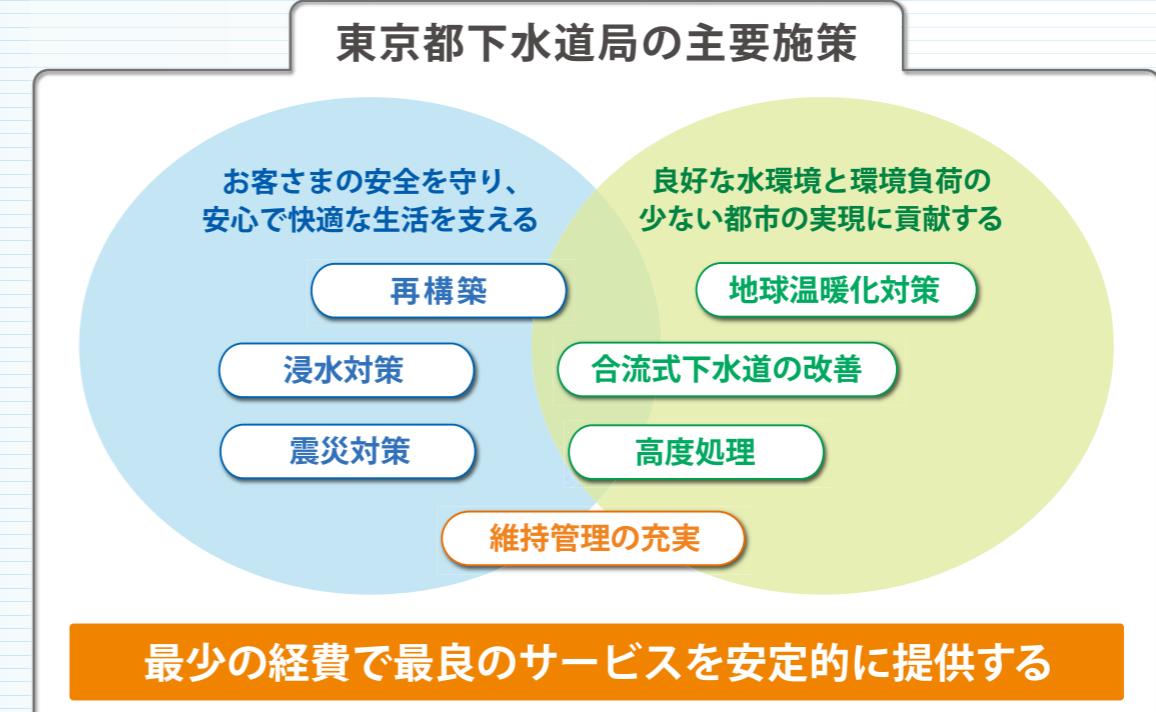
下水道施設の老朽化など東京下水道が抱える課題を解決し、局が施策をより効率的に推進できるようにするために、体系的な技術開発も進めてきました。局が求め現場が必要とするテーマを厳選し、局や大学、民間企業、特に現場を熟知している下水道専業者との共同開発を行い、調査・分析・診断・設計・建設・維持管理にわたり研究・開発に取り組み、下水道事業のPDCAサイクルを支えています。また、開発した技術・製品は広く国内外で利用され、下水道事業の向上に役立てられています。



下水道技術実習センター

TGSはこの30年間、設立趣旨に沿って事業を着実に運営し、技術とノウハウを培ってきました。そこで育んできた業務運営力や現場力、技術力は、教育支援や災害支援、国際支援となって、東京都だけでなく他都市や海外にも展開し、高い評価を受けています。

TGSは、管路から処理場までを維持管理し、技術開発で下水道事業の抱える課題を解決し政策提案することのできる下水道界のオンライン企業です。これからも、設立趣旨に沿って事業を着実に運営するとともに、局とのパートナーシップをより一層強化して、さらなる信頼性、安全性、効率性を得るべく日々の業務に磨きをかけてまいります。そして、事業を通じて下水道界へ貢献し、社会的責任を果たすことで、世界一の下水道企業となることを目指してまいります。



(東京都下水道事業「経営計画 2013」より)

TGSが担う主要事業

お客さまサービスを最前線で支えています

- ◎管路維持管理事業 ◎下水道受付センター事業 ◎排水設備関連事業
- ◎災害支援事業 ◎下水道施設見学者対応事業 ◎その他サービス事業

処理施設の運転・管理を支えています

- ◎水処理事業 ◎汚泥処理事業 ◎光ファイバーネットワーク施設管理事業

環境負荷低減に貢献しています

- ◎再生水事業 ◎汚泥資源化事業 ◎建設発生土改良事業

再構築・改良事業を支えています

- ◎調査事業 ◎下水道台帳情報システム事業 ◎管路設計積算事業
- ◎積算システム事業 ◎工事監督補助事業

下水道の未来を築きます

- ◎技術開発事業 ◎人材育成・技術継承

世界の水環境改善に寄与します

- ◎海外インフラ整備プロジェクトなどの推進 ◎個別技術の海外展開
- ◎人材交流と情報ネットワークの強化

包括的管理業務により区部全体の汚泥処理を行うTGS の根幹事業



汚泥処理施設運転監視操作

最少の経費で最良のサービスを提供する 大いなる挑戦がここから始まりました

東京都の下水道事業を補完・代行する第三セクターであり、全国でも初めての“株式会社”として設立されたTGS。その第一歩は、芝浦水処理センター（現・芝浦水再生センター）の汚泥処理施設管理業務の受託という形で踏み出されました。最少の経費で最良のサービスを安定的に提供するという局の経営方針に沿い、受託範囲を段階的に拡大していく、現在では、都区部にある6か所の汚泥処理施設（濃縮・脱水・焼却）すべての管理業務を受託。さらに、2003年度からは包括的管理業務が始まっています。包括的管理業務は、それまで局が行っていた薬品調達や修繕業務なども一括して受託することにより、局のさらなる効率化に貢献するとともに、TGSの持つ管理運営能力を最大限に発揮することができる体制です。

また、会社設立時から、汚泥資源化事業を開始しました。汚泥資源化技術によって、

汚泥はTGSが自ら設置した施設などで最終的に再生建材などに生まれ変わり、資源のリサイクルに貢献しています。

TGSは、現在、年間約6,900万m³（東京ドーム55.6杯分）の汚泥を処理し、その事業実績は高く評価されています。



汚泥濃縮機点検



汚泥焼却炉点検



粒度調整灰施設

下水汚泥の効率的な処理とともに
地球環境保全にも大きく貢献しています

汚泥処理とは、下水処理で発生する汚泥を濃縮・脱水し、最終的には焼却する工程です。汚泥の性状は、季節や気象条件で大きく変化し、時に濃縮・脱水が困難になることがあります。TGSでは、独自の技術的判断によって、濃縮・脱水の過程で使用する高分子凝集剤等の薬品の選定や使用量の決定、汚泥処理設備の最適な運転を行い、薬品使用量の低減を図るなど確実な汚泥処理に努めています。

TGSは、30年の技術的蓄積から、効率化とコスト削減について大きな成果を実現しました。

現在、区部の汚泥処理施設では、1日当たりで、汚泥を約19万m³処理し最終的に約92tにまで減量化しています（2012年度）。一方、汚泥の処理工程からは、多量の温室効果ガスが発生します。特に、電力の使用や、汚泥焼却炉での補助燃料の使用による二酸化炭素の発生、汚泥焼却に伴う一酸化二窒素の発生については量も多量であり、地球環境保全の見地から、これらを削減することが強く求められています。

TGSは、汚泥処理設備の運転の工夫により、2012年度は温室効果ガス排出量を2000年度比で20.8万t-CO₂/年削減し、地球環境保全に大きく貢献しています。

また、特筆すべきこととして、「無事故継続実績」があります。TGSの高い技術と、安全管理に対する現場の高い意識によって達成されているといえます。



粒度調整灰

なお、汚泥処理の全事業所でISO 9001の認証を取得して、品質の確保に万全を期しています。

環境負荷低減を実現する水処理事業 都心における水循環システムの形成に貢献



主ポンプ電動機点検



主ポンプディーゼルエンジン点検

専門性を活かし、東京都下水道局の パートナーとして業務を遂行しています

TGSの業務は東京都の下水道事業を補完・代行するものです。しかし、業務範囲が年々拡充されてきた背景には、TGSの創意工夫による着実な実績の積み重ねがあります。下水道の「コア業務」は東京都下水道局、専門的技術を活かしつつ局と密接に連携を取って行う「準コア業務」をTGSが担うというパートナーシップが明確になり、そうした流れの中から、水処理施設の保全業務や水質試験業務を新たに受託することになりました。

TGSでは現在、12か所の水再生センター及び3か所の下水道事務所に保全事業所を配置して、揚水設備、水処理設備、高度処理設備の保全管理業務を担うとともに、13か所の水再生センターで水質試験業務を実施しています。これらの業務にあたっては、局と密接に連携しながら、高い技術力を発揮しています。

なお、揚水設備については、降雨時の確実な運転を確保するため、特に重点的な保全管理業務を行っています。

TGSは、民間企業としての柔軟性を生かしながら、全国唯一の特色ある企業となっています。

新たな水資源の供給事業として 都心の膨大な需要に応えています

汚泥処理事業の受託と同時に、TGSは再生水供給事業の受託を開始しました。当初は新宿副都心の高層ビル群で使われる水洗トイレ用水に落合処理場(現・落合水再生センター)の高度処理水を供給する事業として始まりました。その後、有明水再生センターの再生水を臨海副都心の有明・青海・お台場地区のビル群へ、芝浦水再生センターの再生水を品川・大崎・汐留地区、永田町・霞ヶ関地区、東品川及び八潮地区へ供給するなど、都心部を中心とした水資源の供給事業を展開しています。

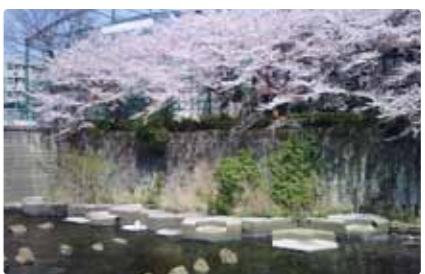


水質試験

心に再開発事業と歩調を合わせるように拡大しています。また、再生水は地域住民に潤いをもたらす清流復活用水としても利用されており、併せて地域の消防用水として都市の防災機能も担っています。

TGSはこれらの事業を円滑に運営していくために、施設の適正な維持管理と再生水

の水質管理、そして安定供給に取り組んできました。特に都心部のオフィス街での使用水量は、平日の昼間と夜間・休日には大きな差があるため、供給量の増減に適切に対応する管理システムを確立しています。再生水の利用は、循環型都市の実現と環境保全に寄与しています。



清流復活（目黒川）



採水



せせらぎの里公園（落合水再生センター）

豊富な経験とノウハウを活かし最前線の都民サービスに対応

常に改善、改良提案を行う 管路維持管理事業

区部の下水道管路施設は、管きょやマンホールなど、膨大かつ多岐にわたりますが、TGSは2004年度以降、試行・検証を重ねつつ、順次管路維持管理事業の受託を拡大し、現在では区部にある23出張所のうち20か所を受託しています。社員は都からの退職派遣社員やTGS固有社員、下水道の維持管理技術やノウハウ、住民折衝や他企業との調整・協議に精通した都OB社員で構成され、作業性に優

れた下水道メンテナンス協同組合を加え、それぞれの強みを生かしたベストミックスの体制で対応しています。

本業務を遂行するにあたり「施設の状態や問題点の隅々にわたる把握とそれに対する適切な対応」を基本姿勢としており、改善、改良提案を積極的に局へ行っています。

この基本姿勢のもと、以下のようなノウハウや成果がこれまでの10年間に培われ、お客様などから好評を受けています。

①お客様からの電話はワンコールで受け
る。要望や苦情には速やかに現地へ急
行し、確認。

②巡回・点検結果や陥没・臭気等の発生履歴等を図示したナレッジマップを作成、常時更新し、迅速に対応。

③ナレッジマップなどを活用し、維持管理計画の策定や施設の改良改善などを局へ提案。

④防臭リッドや内副管装置など、現場力を生かした技術開発・改良。

TGSは局を補完・代行する唯一の会社として、局と連携し「現場からの発想で改善提案していく事業」を確実にするため努力し続け、東京の下水道事業に貢献していきます。



管路内調査



下水道施設点検



下水道施設点検



お客様対応

下水道管きょの再構築事業に 貢献しています

工事監督補助事業は、2014年度には145件の管きょ再構築工事について、局監督員を補助する業務を行っています。

行政の立場を踏まえて、地元や道路管理者、交通管理者、他企業埋設物管理者と協議・立会などをを行うとともに、受注者の指導や安全管理・品質管理等の確認など、再構築工事が円滑に進むように局を補完・代行する役割を担っています。

これまで工事監督補助業務を実施してきた中で、工事の施工内容や工事工程などを周辺住民に分かりやすく説明して理解を得るとともに、下水道全体の相談にも丁寧に対応して地元や町会から多くの感謝状などをいただきました。また、TGSの経験豊かな現場担当者が親切丁寧に監督・指導することで、受注者の施工管理や安全管理に関する意識も向上しています。

今後も続く再構築事業を円滑に推進するため、社内の組織を充実し、関係者の幅広い協力体制を構築して再構築事業の推進に寄与してまいります。



監督補助業務状況



監督補助業務状況

夜間、休日におけるワンストップサービスのさらなる充実を目指して



下水道受付センター事業は、局の閉庁時間帯の故障の通報、苦情等を一元的に受け、迅速かつ円滑な処理を行うもので、年間約14,500件の電話を受け付けています。受け付けた内容は直ちに分析、判断した上で必要な対応、処理を行います。下水道関連以外のものは、たらいまわしを防ぐため所管部署の案内も行います。

下水道関連で、緊急作業を伴うものは下水道メンテナンス協同組合に現場状況や下水道管理者の判断等を連絡し出動を要請し対応します。また緊急作業以外は昼間の出張所の業務へと確実に引き渡し対応します。さらに、補修や改良を必要とする案件は技術的な検討を加えるなどして局へ提案します。

当受付センターの業務は、局の閉庁時間帯におけるお客様へのワンストップサービスの実現、お客様からの情報を活かした予防保全型維持管理に大きく貢献しています。今後もこれらシステムをさらに充実させるとともに、当受付センター業務の技術・ノウハウの継承に力を入れていきます。

創意工夫と革新的な技術開発で高い評価を受ける——「技術のTGS」



14 SPR工法

官と民の融合によって 多くの先進技術を開発してきました

TGSの大きな特徴は、日々の業務から東京都が取り組んでいたる多様な施策に至るまで、あらゆるジャンルの課題に応えられる能力を有し、下水道というインフラをトータルにマネジメントするうえで必要となる多様な技術を自ら開発してきたことです。その結果、東京都下水道局のパートナーとしての役目を十分に果たすことができるようになりました。

こうした特徴が明確になり、「技術のTGS」として自他共に認められるようになったのは、1990年代後半に体系的な技術開発が行われるようになってからのことです。これはTGSにとって大きなターニングポイントでした。以後、次々と革新的な技術が自社開発されたことで局事業の円滑な推進と事業の拡大、経営の安定化が図られてきました。2013年3月、第59回大河内賞「大河内記念賞」を受賞したSPR工法（共同開発／積水化学工業株式会社・足立

建設工業株式会社）も、このような流れから誕生したものです。

TGSの技術開発は、創立当初の汚泥処理関連に始まり、管路施設の施工技術関連、調査技術関連、情報化関連技術分野へと広がりを見せてきました。こうした技

術開発への取り組みを通して、約400件の特許権、実用新案など、産業財産権の出願申請を行いました（一部の技術は海外特許権も含む）。また、外部への積極的な技術提供により、全国各地の自治体における業務改善や再構築にも貢献しています。

産業財産権

2014年3月現在、433件の出願申請を行い、このうち190件の特許権、実用新案等の産業財産権を取得しています。また、一部の技術については、海外特許権を取得しています。

開発テーマおよび開発実績の一部

	開発テーマ	開発実績の一部
安全性の向上	老朽化対策の推進	SPR工法®、非開削地中障害物対応工法®(DO-Jet工法®/DO-Jet Method®)、機械式T字接合シールド工法®(T-BOSS工法)、オメガライナーエ工法、コノバットシールド工法、足掛金物自動取替装置、マンホール上部補修工法®(MR²工法)、塗布型防食被覆工法(防食材は焼却灰を利用したエコロガード)、内管(スマートキャッチ)
	浸水対策の推進	光ファイバー水位計システム、光レベルスイッチ®、ます用逆流防止装置(カンタン君®)
	震災対策の推進	SPR工法®、非開削マンホール浮上抑制工法®(フロートレス工法®)、既設人孔耐震化工法®、オメガライナーエ工法、更正管マンホール接続部耐震化工法®(耐震一発くん®)、大口径既設管耐震化工法、地震時人孔側地盤すれ抑制シート工法(ボンドくん)
快適性の向上	合流式下水道の改善	水面制御装置、グリース阻集器(吸着王)、下水道管路の自動洗浄装置(フラッシュゲート)
	周辺環境対策技術	防臭リッド・防臭キャップ(防臭王)、光触媒式空气净化装置、オゾン脱臭装置(アクアオゾンマスター)、防錆及び防臭型圧力開放装置、管路内圧力開放装置
地球環境の保全	資源の有効活用	粒度調整灰
	ソフトプランの推進	光ファイバーケーブル敷設ロボット*、光ファイバー水位計システム*、光レベルスイッチ*
事業の効率化	維持管理の充実	未閉塞取付管閉塞工法、取付管空洞調査機、管渠内面展開図化システム・ミラー方式テレビカメラ調査機、無翼扇型送風機(ホールエアストリーマ®/HAST®)、多機能型マンホール蓋、りん固定剤(ホスアミット®)、レーザ光式汚泥濃度計、ハニカム濃縮機、下水道総合情報管理系统、下水道設備保全管理システム(エスキューブラス®)

*技術開発は、広く国内外で活用していくためにそれぞれの協会とも協力しながら普及・啓発を行っています。

*印のある工法には、それぞれの協会があります。各協会のホームページ等をご覧ください。



15 DO-Jet工法

等、局施策の円滑な推進を支えています。現在、利用ニーズや他都市の下水道事業の課題解決にも貢献できるよう、既存技術の改良に取り組むほか、将来の人口減少等の状況も見据えて新技術の開発にも取り組んでいます。



ミラー方式テレビカメラ



台帳データの更新作業状況



台帳情報（一部）は、下水道局のホームページで公開されています。



管路診断情報

下水道台帳情報システム(SEMIS)

23区内、延長約16,000kmの管きょ、48万個の人孔についての膨大で複雑な情報は、調査を基にデータベース化されています。下水道台帳情報システムは維持管理・再構築・改良事業に欠くことのできない情報システムで、TGSは、機能改善・運用管理及びデータ更新等、システムの保守管理を行っています。



無翼扇型送風機 (ホールエアストリーマ®/HAST®)

下水道管路施設内作業の安全性向上を目指して開発した新しい換気システムです。マンホールの昇降口を塞がずに、設置が容易で、大量の空気を連続して送風でき、送風中でも人の昇降や資材の搬出入が容易にできる換気装置です。

人材育成と技術継承に向けて

下水道技術実習センターを拠点に、未来に向けた“人づくり”に取り組んでいます

東京都の下水道サービスの維持向上に貢献することがTGSの大きな使命です。この使命を達成するためには、人材の育成と技術の継承が重要です。

TGSでは、安全かつ効率的な業務遂行に必要な知識や技術を習得し、下水道の

プロフェッショナルとなる人材の育成を行っています。また民間企業の技術者にも研修の機会を提供し、下水道界全体の技術力向上に貢献しています。そうした研修事業の拠点が東京都江東区にある砂町水再生センター内に設置された「下水道技術実習センター」です。

ここでは東京都下水道局職員、TGS社員、民間事業者等を対象に、下水道の現場を

再現した施設で自らが体験できるプロセスを通じた実習により、人材育成と技術継承のための研修事業が行われています。技術とノウハウを次世代に確実に継承していくために、下水道技術実習センターの果たす役割は、今後ますます重要なものと考えています。



実習風景



実習風景



研修風景



現場研修

価値ある「下水道文化」を後世に伝えていくために



旧三河島汚水処分場唧筒(ポンプ)場施設（国指定重要文化財）

東京の近代下水道に関する 文化的資産等を保存・活用する業務を行っています

TGSでは、東京の下水道に関わる歴史的施設や古書、写真などの貴重な資料を整理・保存し、後世に伝える「下水道アーカイブス事業」に取り組んでいます。これまでに、「東京市下水道改良実施調査報告書」をはじめ、「東京市下水道沿革誌」「欧米各国市街下水溝渠改良方桉」など、明治・大正時代に編纂された資料の口語訳版の刊行、整理を行ってきました。一方、局では広報の一環として下水道施設の見学にも力を入れており、この見学者への対応業務もTGSが行っています。その一つが、わが国最初の近代下水道施設で、国指定重要文化財に指定されている「旧三河島汚水処分場唧筒(ポンプ)場施設」です。阻水扉室、沈砂池など、一連の構造物が

旧態を保持しつつまとめて遺されており、多くの見学者の関心を集めています。また、汚泥処理をはじめとする多様な技術に関わる理論・実務専門書を編纂・出版し、全国の自治体でご活用いただけるようにしています。



唧筒井接続暗渠



下水道アーカイブス事業



出版事業

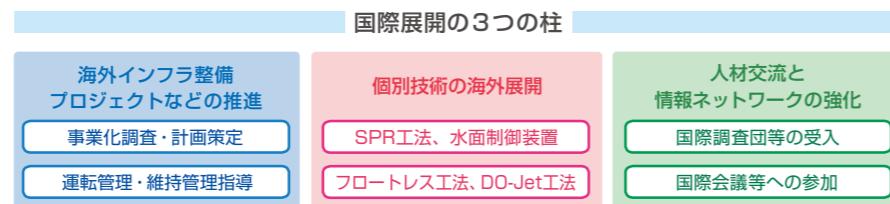
「技術・ノウハウ・マネジメント力・人材」を世界へ 安全で衛生的な生活環境の実現を支援



マレーシアでの実習風景

東京都下水道局と一体となって 国際展開を推進しています

安全で衛生的な生活環境を実現するためには、下水道の果たす役割は極めて大きいものがあります。しかし世界には、まだ十分な衛生環境が確保されていない地域が多く、日本の下水道技術に対する期待は高まっています。局では下水道分野で課題を抱える国や地域への支援と、国内下水道関連企業の海外展開を後押しするため国際展開を行っています。こうした背景から、TGSは東京都の監理団体として、局と緊密に連携し、案件に応じた適切な役割分担のもと、一体となって国際展開に取り組んでいます。



EU(ドイツ連邦) 2014年5月7日 水面制御装置の性能評価を実証するため基本合意書を締結



モンゴル 技術指導風景

災害時に一日でも早く下水道機能を取り戻すために

東日本大震災による液状化等の被害を受けた下水道施設の復旧に貢献しています

2011年3月11日に発生したマグニチュード9.0の巨大地震は、東京湾沿岸部や千葉県東部を中心に世界最大級といわれる規模の「液状化現象」を引き起こしました。この液状化は、住民の生活を支えるライフラインに大きなダメージを与え、一部地域では、下水道の使用が制限されるなど、普段忘却がちな下水道の大切さを改めて浮き彫りにする結果となりました。

この状況から千葉県浦安市からは3月21日、国交省を通じ東京都に復旧支援の要請がありました。下水道局はこの要請に応え3月25日に市と支援内容を協議し、翌26日から、局とTGS、下水道メンテナンス協同組合による支援体制を整え現地に派遣することとなりました。被害の多くは、液状化による管きよの損傷と流入土砂による管の閉塞であり、この被害により市内7万3千世帯中1万2千世帯で、下水道が一時使用不能となりました。

支援内容は、管きよの流下機能を回復するための土砂清掃と災害査定に必要なテレビカメラ調査などで、10地区43.9kmの管きよについて、4月15日を期限に調査を完了させるという大変厳しいものでした。10名1班の20班編成で1日最大232名、延べ2,261名を投入し、僅か約2週間の工期でその目的を達成しました。

さらにその後、市から局を通じて、TGSに災害復旧工事の実施設計委託のチェックと11件の災害復旧工事の施工管理について支援要請がありました。現在5件の工事を完了し、残る6件の工事について2014年度内のしゅん工を目指し精力的に取り組んでいます。



浦安市の人孔浮上状況



浦安市の災害復旧作業状況

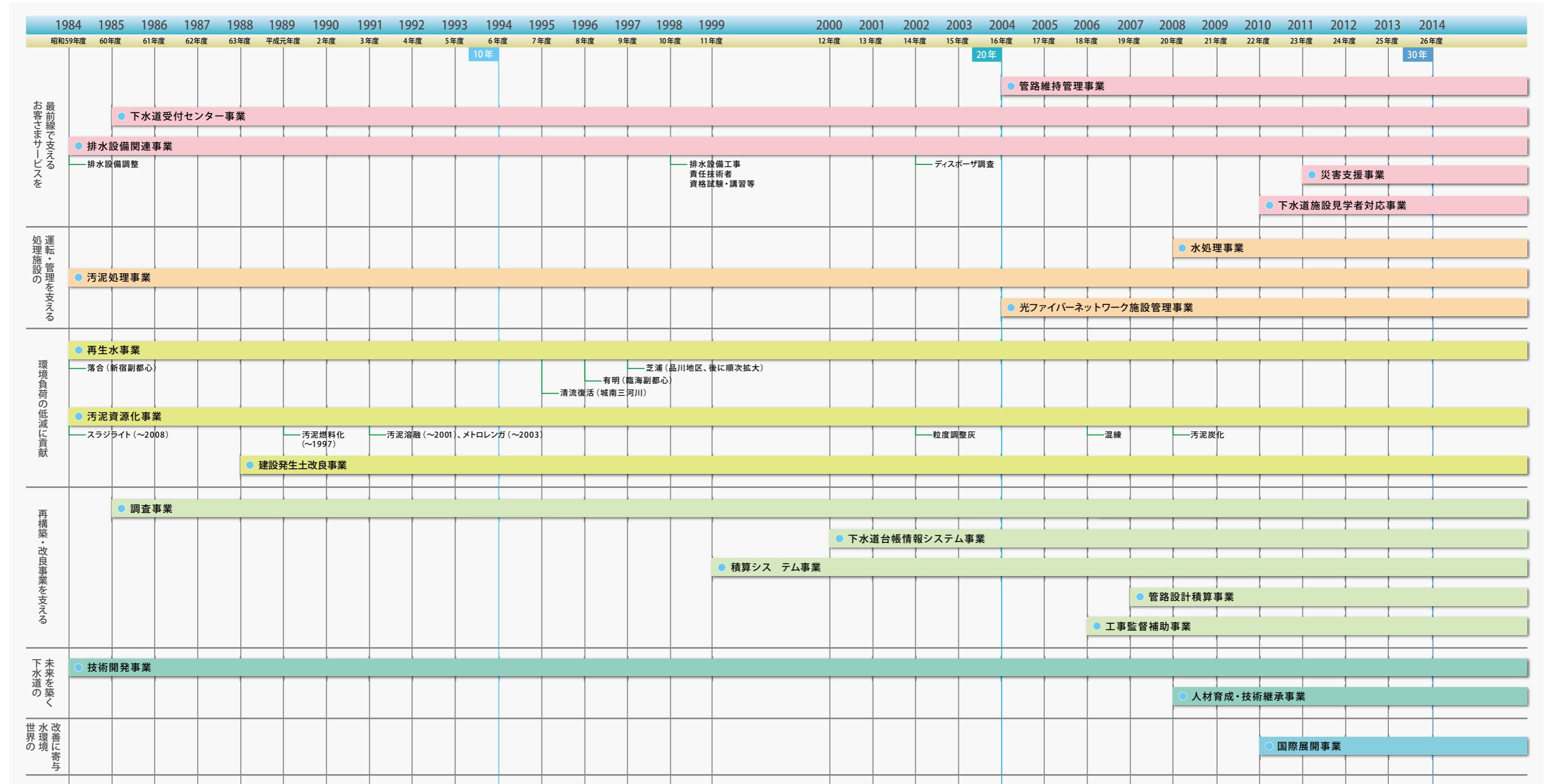
貴重な経験を後世に継承

毎日の生活の中で生じる多量の汚水を受け入れるのは下水道以外にはありません。私たちはこの震災により下水道の大切さを再確認させられました。

TGSは浦安市のほか千葉県香取市、江

東区新木場地区における災害復旧にも貢献してきました。この貴重な生きた経験を一過性で終わらせることがなく、災害復旧に関わる調査・復旧作業手順や作成資料などをとりまとめ、後世に継承できるようにしています。

TGS主要事業30年のあゆみ



東京都下水道サービス株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番2号 日本ビル内
TEL:03-3241-0711(代表)
FAX:管理部03-3241-0766/技術部03-3241-0909
施設管理部03-3241-0783/管路部03-3241-0710
資本金:1億円(授権資本金4億円)
売上高:19,932百万円(2013年度実績)

株主

東京都
一般社団法人東京下水道設備協会
株式会社みずほ銀行
株式会社損害保険ジャパン
明治安田生命保険相互会社
株式会社三井東京UFJ銀行
朝日生命保険相互会社
東京海上日動火災保険株式会社
みずほ信託銀行株式会社



ISO9001認証取得

登録範囲

1. 下水汚泥処理施設(濃縮、消化、脱水、焼却)の運転管理及び保全管理
2. 再生水施設の運転管理及び保全管理
3. 建設発生土改良施設の運転管理及び保全管理

適用事業所等

みやざ事業所、新河岸事業所、森ヶ崎事業所、葛西事業所、有明事業所、新宿再生水事業所、芝浦再生水事業所、中川建設発生土改良プラント事業所、東部スラッジセンター、南部スラッジ事業所及び本社関連部署





〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル内
TEL.03-3241-0711(代表)

ホームページアドレス : <http://www.tgs-sw.co.jp/>